

冬の遊び



山口たつ

冬期に於ける子供の遊びは、寒さに対して暖をとる様な、活潑な運動量の多い遊びが好ましく、動的な、テンポの速い遊びが、多い様に思われます。晴天の日には、つとめて、戸外遊戯を奨励し、団体的な遊びをする様に、誘導する事が大切だと思えます。

当地方の子供が好んで遊ぶ遊戯の二、三、を紹介いたします。

「子とろ、子とろ」

先づ鬼を決める。後の子は親を先頭に一系列に汽車の様につなぐ。そして、みんなで「子とろ、子とろ、どの子をとるか」と歌いま

す、「この子か、この子か」と前から一人づつ聞き、一番最後の子供が聞いた時に、「その子だ」と答えて、最後の子を鬼が、つかまえようとする。親は、その子をかばって捕えられない様に防ぐ。途中で列が切れたりしない様にする。捕えられたら、鬼になる。鬼は先頭の親になる。これを繰返す。この遊びは、お互に協力しないと、列が切れたりしてうまくできない。運動量も相当にあり、子供達は大変喜んで遊びます。

「石けり」

地面に色々な形を書き、石をけてその中へ入れていく。一番終りまで来れば、帰りは石を持って、目をつむって一歩、一歩、線を踏まない様にして帰っていく。日当りのよい暖い場所で五、六人のグループでしていきま

「ちつば」

地面へ数個の丸を書き、玉を作つて、入口に置く、片足、両足、交互に線を踏まない様に、とんでいく。一番大きな丸で休み、又跳んで帰る。玉をとつて、最初の所へ投げる。その玉のある所は、とばして跳んでいく。同じ事を繰返し、玉が最後までいけば持つて帰

り片足跳びで、その周りを廻る。片足跳の個人遊びであるが、平均能力をつける事が出来る。相当の体力が必要である。日当りのいい場所、石畳み等利用して遊びます。

「まりつき」

個人遊びで色々地方地方で、独得の手まり歌を、歌つてついでに。足をくぐらせたリ背中であけたリ、下股をくぐらせたリして遊びます。女の子が陽溜り、五、六人のグループで楽しそうに歌つて遊びます。

「ドツチボール」

円形で、赤白の二組に分れます。ジャンケンで円内へ入る組を決める。勝つた組の望み通りにします。円内の組を、円外の組が、ボールを投げて攻めます。ボールのあたつた子は、円の外にでて並ぶ。円内の子は、球に手を触れない様に逃避する。一度地面についた球は体に触れてもいい。一定の時間、(十分間位が適當)行つたら、円内と円外が交替します。球のあたつた子の数で勝敗を決める。極めて、活発な、スリルのある遊びなので、男の子はとて喜ぶます。この遊びは、機敏性、協力が養われ、冬期には最も好ましい団体遊びだと思えます。

「猫と鼠」

猫と鼠を決める。他の子は円形を作る。猫は円の中央で目をつむつてすわっている。鼠はその周りを手をたたきながら、歌に合せて廻る。

「もしもし猫よ。寝坊猫、お手々のなる音よく聞いて、起きよ、起きよ、早く。」

歌が終わったら、猫は眼を開けて、鼠を追いかける。円の子は、手をつないで柵をつくつて、猫につかまらない様に、鼠をかばつてやる。つかまれば、自分の席にかえる。猫や鼠になつた子は、相当な運動量であるから、暖がとれる、円を作っているのは、お互に協力して鼠をかばうため、両者のチームワークが必要だ。五、六歳児はとても興味を持って遊ぶ。

「縄とび」

一人一人で前廻し、後廻しをして跳んで遊ぶ。団体的な縄飛びは、まだ出来る子が少ないが、長い綱の片端を、教師が持ち、片端を幼児に持たせ、跳びやすい様にまわしてやるととても喜んで跳び、だんだんうまく跳べる様になると非常に満足感を覚えて嬉しそうである。五、六才の女児が特に好んでするが、

男児も跳びたがり熱心に練習をする。跳躍による全身運動で、冬の遊びとしては最適であるが、興味にまかせて過度になり、過労しない様、気をつけたい。充分休息をとらせなければいけない。

「かけっこ」

一列に並んで。走る。一等、二等と順位をきめる。年長になるとこうした競争的な遊びを好む様になる。

——鬼ごっこ——

「手つなぎ鬼」

だんだん鬼になつた児子が手をつないで、追つていく。

「ずわり鬼」

立つている子にさわる。坐つて居ればさわらない。機敏性が必要である。休息が自由出来るので喜ぶ。

「こままわし鬼」

お正月前後には、こま廻しが男児の間では盛になる。これは、廻したこまを、掌にのせて鬼ごっこをするこまの廻つてる内に捕える一寸技術を要するので、六歳児にならないとあまりしない。男児がする。女児はしない。

「羽根つき」「お手だま」「おはじき」等

の遊びはお正月前後、女の子が好んでするがこうした静的な遊びは、あまり現在の幼児はしなくなった。当地方ではすたれていく様になります。「羽根つき」等はまだ仲々うまくつけないので、幼児には興味がない様です。

「せつせつせ」

「せつせつせ、ばらりこせ。ことしのぼたんはよいぼたん。耳にかけて、すつぽん、ぽんもう一つかけて、すつぽんぽん」と歌いながら、両手を打ち合う。二人で向いあつて、女の子が陽溜りで、二、三組しているのを見られるが、こうした消極的な遊びは、やはり漸次すたれていく様に思われる。

「あやとり」

女児が、毛糸や、ビニールの紐であやとりをしている。一人とり、二人とり、とわけて興味深くしている。小筋肉の発達促進には、いい遊びである。室内遊びとして適当である。

「雪あそび」

雪が降れば、子供達は外に跳びだして、雪合戦を勇敢にする。ころころと雪玉をころがして、雪だるまを作る。女の児は、雪うさぎを作る。

小石木片を、紐に結びつけて、雪つり遊びをする。こうした雪遊びの後は、濡れた手足衣類を、よく乾かしてやり、凍傷をおこさない様に、よく注意する。

「乗物ごっこ」「おすもう」等男児は特に好んでする。危険なとり方をしない様に、よく注意して、子供達で行司もさせると、とても喜んでする。

「王様おとし」

鬼を一人ジャンケンで決め、他の子は一列に並ぶ。鬼は王様を最後にして、下から順番にジャンケンする。勝ったら、次の人とジャンケンする。負けたら、その人と替って、順にジャンケンをしていく、王様とジャンケンして勝った人が、王様になる。陽だまりで、ジャンケンを楽しんで遊びます。

以上挙げた様な遊びを、冬期には子供達が好んでしている様に思います。あくまで、寒さに負けず、仲々と大自然の大気の中で跳びまわらせたいと思います。その他、攀登棒、鉄棒、等を使って、懸垂力をつける様な、体育的な遊びもさせる様にしなければいけないと思います。ごっこ遊びの様な、静的な、模倣遊びは、あまり此の時期には歓迎されな

い。だが男児に、野球ごっこ。ターザンごっこ、西部劇ごっこ、の様な、勇壮活発な、スリルにとんだ遊びを、六歳児の子が十人位のグループを作り、そのものになりきって、楽しそうに遊んでいる。

冬期の子供の遊びは、特に体育的な面も、充分考慮して、積極的に、鍛錬する様な、集団的な遊びを、興味ある平易なものに、創作して与えていく事が必要だと考えます。球技等も、もつと幼稚園の遊びの中に取入れていくべきだと思います。

(名古屋市青葉幼稚園)

◎教育実際指導研究会のおしらせ

六月の教育実際指導研究会の期日が左のように決まりました。

六月九日(木) 六月十日(金) 六月十一日(土)

何卒御予定の中にお組みおき下さいますように。

昭和三十年三月

お茶の水女子附属幼稚園内
幼児教育研究会